

令和5年度
「国保連合会保健事業支援・評価委員会」
報告会
(令和5年12月20日開催)
実施結果報告

令和6年3月22日時点

国民健康保険中央会
保健福祉部保健事業課

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会 概要

1. 日時 : 令和5年12月20日（水） 13時30分から16時30分
2. 研修会形式 : 事前Web配信、Zoomによるウェビナー形式
3. 主催 : 国民健康保険中央会
4. 対象者 : 国保連合会保健事業支援・評価委員会、国保連合会職員
5. 都道府県別出席数（率^{※1}） : 支援・評価委員会39 <83%>、連合会45 <96%>
6. アンケート回答数（率^{※2}） : 支援・評価委員会32 <82%>、連合会42（45人^{※3}） <93%>
7. 日程

<第1部> 事前配信 令和5年12月13日（水）から配信

対象者：国保連合会保健事業支援・評価委員会委員、国保連合会担当者

-	行政説明（15分） 厚生労働省保険局国民健康保険課保健事業推進専門官 伊原 正浩 氏
-	行政説明（15分） 厚生労働省保険局高齢者医療課一体的実施調整官 宇野 薫 氏
-	講演（20分） 「第3期データヘルス計画と個別の保健事業計画への支援・評価におけるこれからの支援・評価委員会の方向性について」 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員 浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座教授 尾島 俊之 氏
-	講演（25分） 「PDCAサイクルを踏まえたこれからの支援・評価委員会の方向性～後期高齢者第3期データヘルス計画・一体的実施を中心に～」 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員 女子栄養大学特任教授 津下 一代 氏
-	中央会からの報告（15分） 「ヘルスサポート事業の取組状況と今後の方向性について～ガイドライン改訂と令和4年度報告書を踏まえた検討～」 国民健康保険中央会保健事業担当専門幹 三好 ゆかり

<第2部> Web会議 令和5年12月20日（水）13:30開始

対象者：国保連合会保健事業支援・評価委員会委員、国保連合会担当者

13:30	開会・主催者挨拶（5分） 国民健康保険中央会理事長 原 勝則
13:35	来賓挨拶（5分） 厚生労働省保険局国民健康保険課長 笹子 宗一郎 氏
13:40	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員長挨拶（5分） 公益財団法人日本建築衛生管理教育センター理事長 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室客員教授 宇都宮 啓 氏
13:45	意見交換の進め方の説明、ブレイクアウトルームへ接続（5～10分程度）
13:50	意見交換（80分） 1グループ6都道府県、全8グループで実施 テーマ 「国保及び高齢者保健事業の第3期データヘルス計画策定支援の振り返りと これからの保険者支援について」 ① 支援の取組の現状 ② 残された課題 ③ 策定した個別保健事業の推進 ④ 中間評価に向けた対応
15:10	第2部 閉会

<第3部> Web会議 令和5年12月20日（水）15:25開始

対象者：国保連合会担当者

15:25	情報交換の進め方の説明（5分）
15:30	情報交換（60分） 1グループ6都道府県、全8グループで実施 テーマ 「国保連合会保健事業支援・評価委員会の運営に関する現状や課題について」
16:30	第3部 閉会

※1：出席した都道府県数／47都道府県

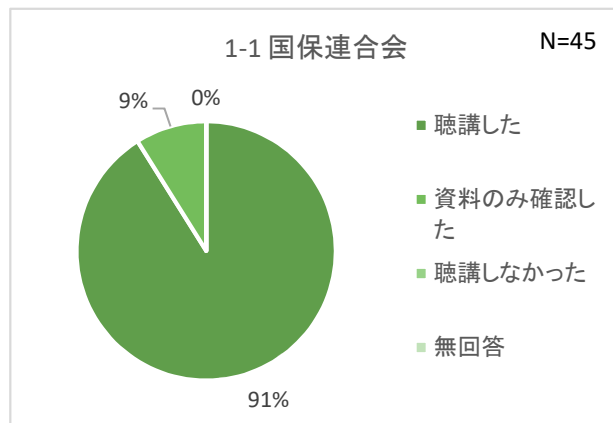
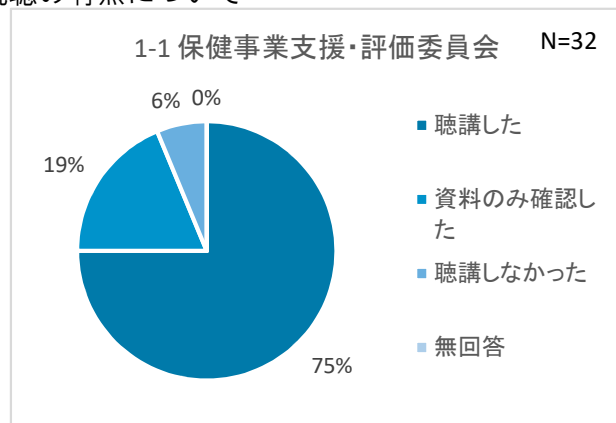
※2：回答した都道府県数／出席した都道府県数

※3：回答した人数（同一連合会から複数回答があったもの）

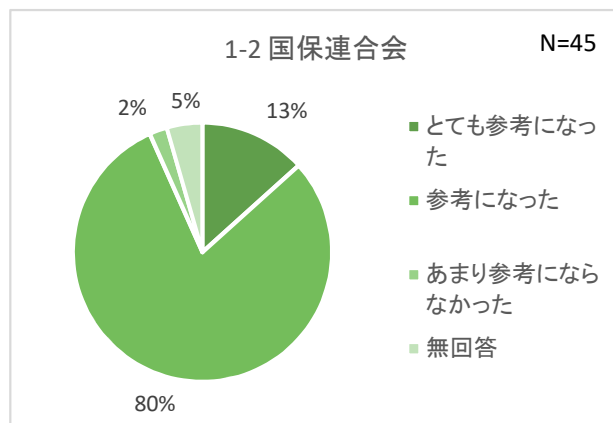
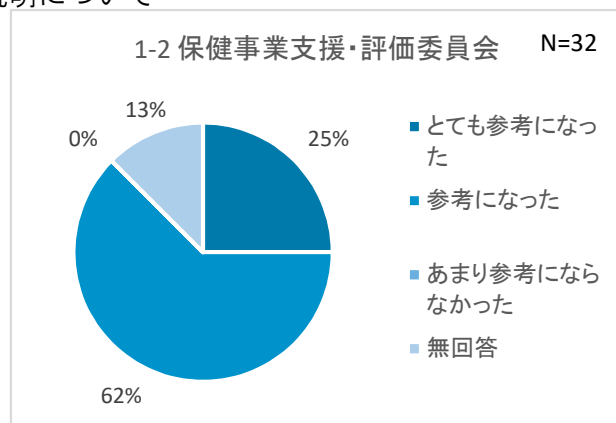
令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

1. 行政説明『国民健康保険課からの情報提供（糖尿病性腎症重症化予防の取組、国保制度の現状等）』 厚生労働省保険局国民健康保険課

視聴の有無について



説明について※



※ 無回答は、視聴の有無で「聴講しなかった」「無回答」を含む

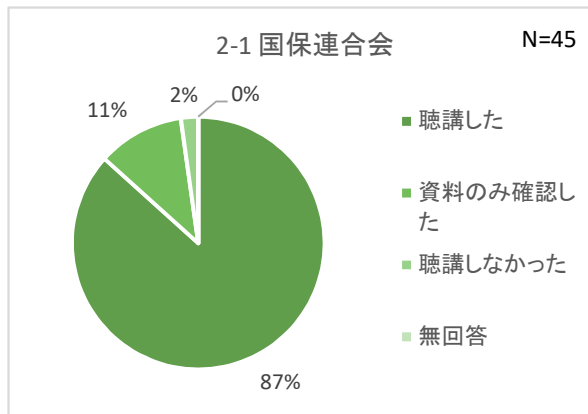
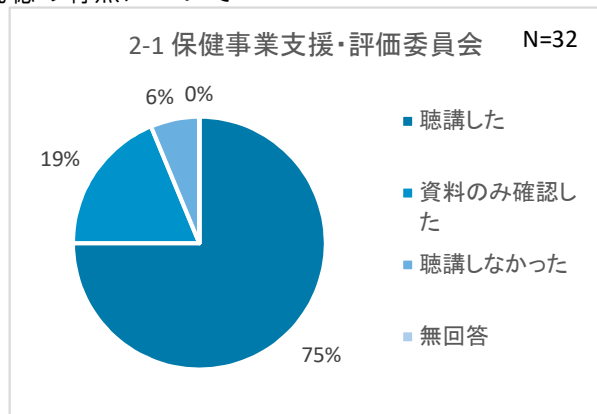
主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (5)	糖尿病性腎症重症化予防の取り組み方や国保制度の現状等について、理解ができた。
	目指す方向性の確認ができた。
	透析導入患者の高齢化と最近4万人で横ばい傾向になっていることが分かり、参考になった。
国保連合会 (5)	糖尿病性腎症重症化予防プログラム及び事業実施の手引きの改訂について、方向性やスケジュールが説明され参考になった。
	糖尿病性腎症重症化プログラムの介入効果の検証結果が参考となった。
	「糖尿病性腎症重症化予防事業」に益々注力されていることが理解できた。改訂の手引き、プログラムの方向性のポイントを教えていただきたい。糖尿病性腎症重症化予防事業はとても難しい事業だと思う。プログラムと手引きの改定を楽しみにしている。

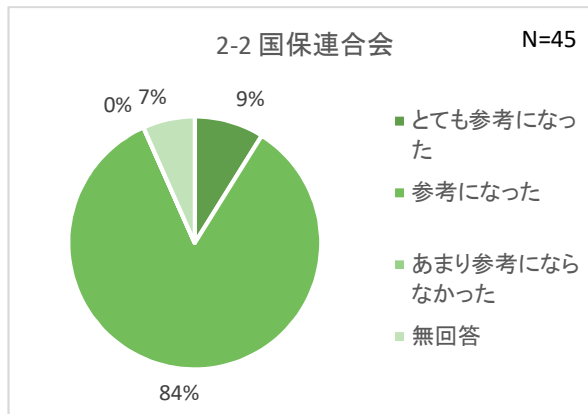
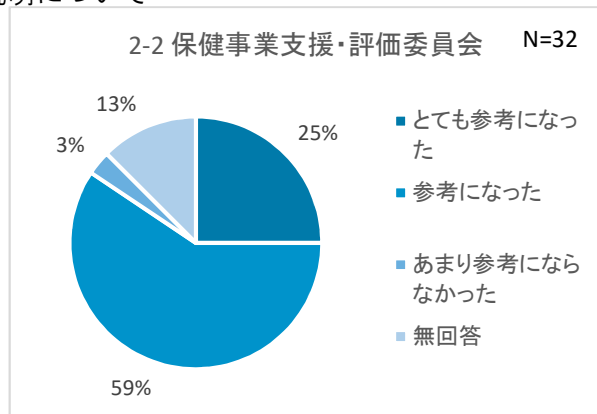
令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会（アンケート結果）

2. 行政説明『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について』 厚生労働省保険局高齢者医療課

視聴の有無について



説明について※



※ 無回答は、視聴の有無で「聴講しなかった」「無回答」を含む

主な意見・感想

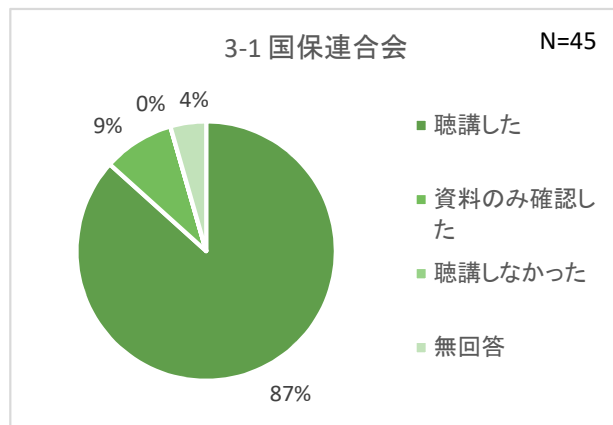
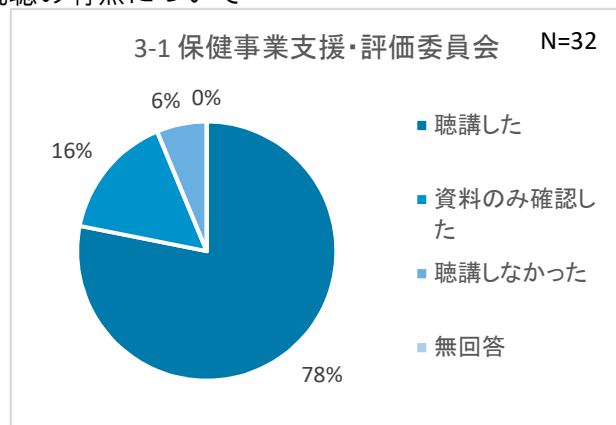
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (4)	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の進捗状況および内容について理解できた。
	検診受診率の算出方法が示され、全国的に比較できるので大変良かった。
	具体的な例もあって、わかりやすかった。特に、今後は評価の視点が重要になってくるので、講義の時間はもう少し長い設定でもよかったと思う。
国保連合会 (6)	高齢者保健事業における目標設定の考え方を再認識できた。各市町村の状況に合わせてハイリスク者の優先順位をつける必要があると改めて感じた。
	共通指標である身体的フレイルに関しては、一体的事業のハイリスクアプローチのどの事業が該当するのか情報提供をいただきたい。
	資料の『市町村の課題』にもあったように、事業内容を深める以前に庁内外のコンセンサスを得られていない、企画調整担当が孤軍奮闘している例が多い。一方で、高齢化率が高い市町では目の前の課題として取組みが進んでいるため、横展開を図りたい。 課題を検討する上で介護予防事業との連携が重要であるが難しい。
	一体的実施に関しては、充実していくことの必要性はわかるが、現場では専門職がおらず困っていると聞く。大きな課題だと思う。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

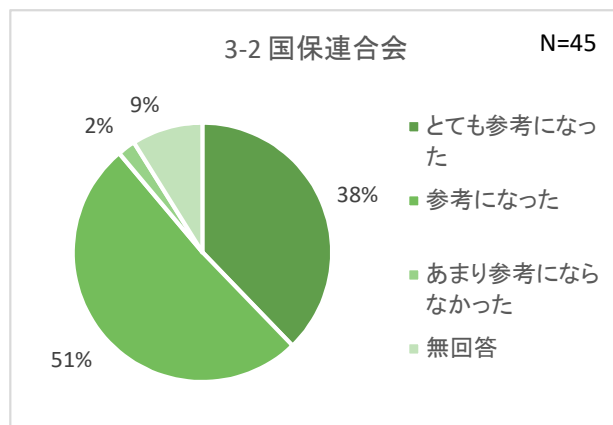
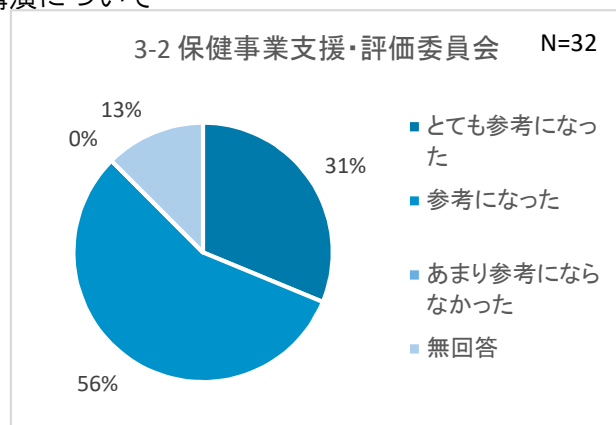
3. 講演『第3期データヘルス計画と個別の保健事業計画への支援・評価における これからの支援・評価委員会の方向性について』

浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座教授 尾島 俊之 氏

視聴の有無について



講演について※



※ 無回答は、視聴の有無で「聴講しなかった」「無回答」を含む

主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (4)	質的情報の分析を行うことで、保険者の実情が反映されていく重要性を再認識した。
	医師会等との連携する際のポイント、日常的に付き合う、構想段階から相談する、計画策定に加わってもらう等、注意点を指摘していただけてよかった。
	支援・評価委員として、これまで以上に自治体職員の計画立案に寄与する助言・指導を行って参りたいと思う。

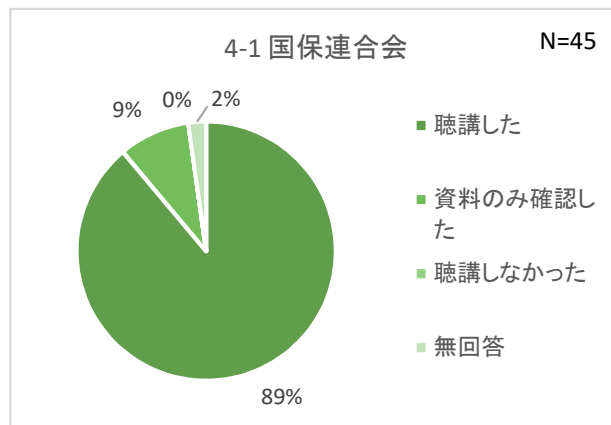
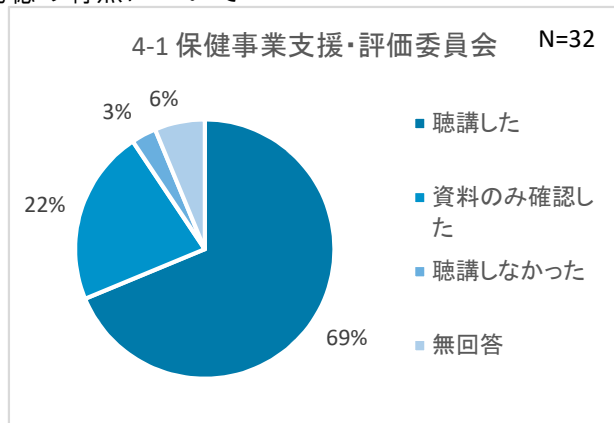
国保連合 会 (12)	<p>計画書の意義を理解し、その目的をしっかりと意識することが重要であることを改めて理解した。</p> <p>委員会支援の重要性を委員会、事務局、保険者と共有し実施、評価していくことが重要であることを再認識した。</p>
	<p>講師が話されていたように、データヘルス計画は効果的に保健事業を実施するためPDCAを循環させることを再認識した。</p> <p>保険者が効果的・効率的な保健事業が実施できるよう、形成的評価を意識して、支援していきたいと思う。</p> <p>スライド1枚当たりの情報量を加減していただいており、かつ説明もゆっくりと簡潔だったため、とても理解しやすい内容だった。</p>
	<p>データヘルス計画策定への支援希望が多い中、評価委員会での支援・助言についてのお話が大変参考になった。</p>
	<p>まずは保険者自身で振り返り、住民・関係者の声を聞くことから事業の改善策につながるという説明があり、本委員会でも説明した内容であったのが印象的であった。委員会のあり方や効果的・効率的な運営に役立てたいと思った。</p>
	<p>これからの委員会の方向性については、もう少し具体的に説明していただきたかった。</p>
	<p>静岡県の取り組み例が参考になった。</p> <p>保険者間の共有方法はわかったが、スケジュール、そこにかかるボリューム、事務局運営上の課題なども教えていただきたいと思う。</p>
	<p>強調している助言や具体的な助言が参考になったが、すでに本県では希望市町の第3期計画策定支援を終えていたため、保険者支援を行う上でもう少し早く研修会が開かれご講演を聴いておきたかった。</p>

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

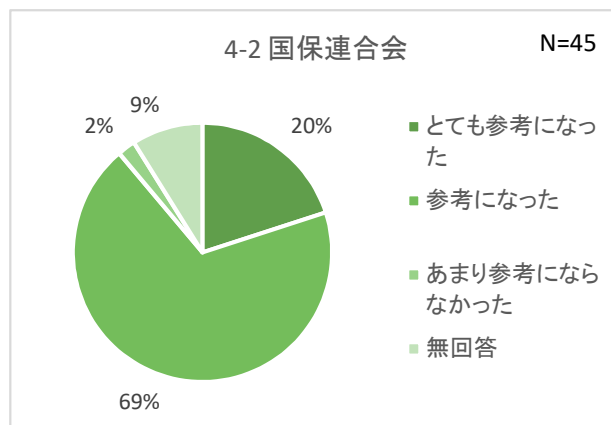
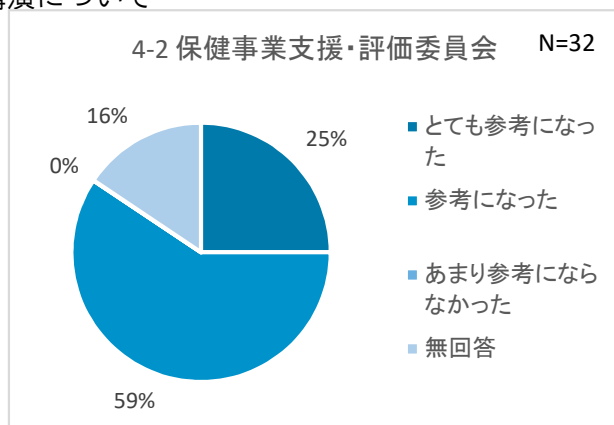
4. 講演『PDCAサイクルを踏まえたこれからの支援・評価委員会の方向性 ～後期高齢者第3期データヘルス計画・一体的実施を中心に～』

女子栄養大学特任教授 津下 一代 氏

視聴の有無について



講演について※



※ 無回答は、視聴の有無で「聴講しなかった」「無回答」を含む

主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (5)	介入が必要な対象者を抽出しアプローチできているか確認するため、評価を適切に行っていくことの必要性を認識した。
	委員会として、自治体の計画・実施・評価について吟味して支援していきたい。
	一体的事業を実施しなければならないというノルマを達成するための保健師の業務量・時間と、実績が見合わないという実態があるのではないか。今後は、市町村実施率・数のみで評価するのではなく、実質参加者（指導を受けた者）と健康の改善率、費用対効果という指標でも実績を示してもらいたい。

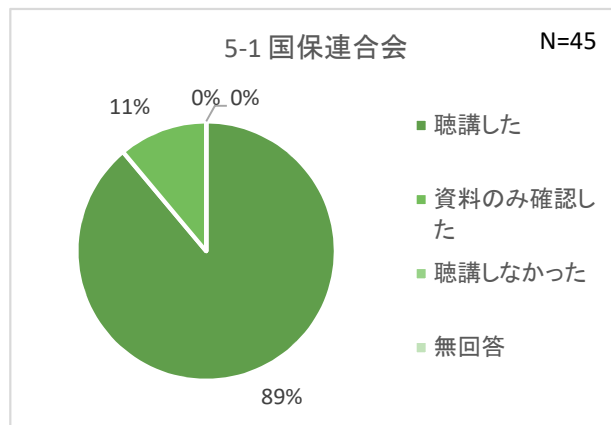
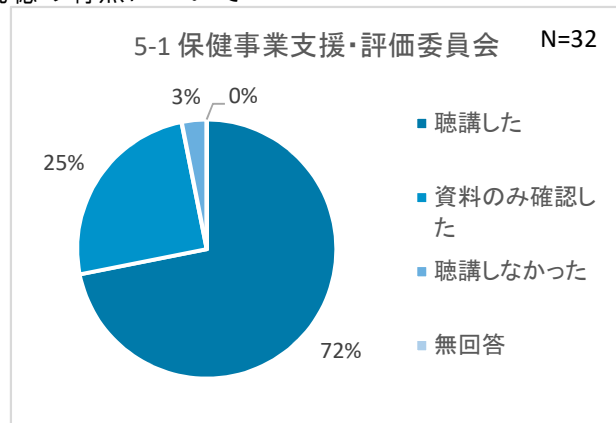
国保連合 会 (7)	国の方向性を理解した上で、支援の方向性を委員と共に共有する必要性があることが分かった。
	「分母を一定の「抽出基準該当者」とすることで標準化できる」ということは、難しいが、国保でも当てはまることだと思った。
	後期高齢者第3期データヘルス計画は、広域連合全体で評価指標を定め、適切に評価・考察ができるように策定することが必要とわかった。
	支援対象者の分母と分子の考え方について説明があり、今年度の本委員会でも多くの保険者に助言した内容であった。対象者の把握にあたり、保険者に認識してもらう必要性があると再認識できた。 また、一体的実施・KDB活用支援ツールや再構築中の一体的実施・実践支援ツールの活用推進を今後も行っていく必要があると感じた。
	多剤投薬事業に関しては、多剤の定義など各連合会において、どのように扱っているか、また支援状況についても教えていただきたいと思った。
	講義の中で「対象者の絞り込み方法やアプローチ法について検討を行うことも有用である」とあった。とても大切だと思った。
	限られたマンパワーの中で事業の優先順位や実施量の判断が難しい。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

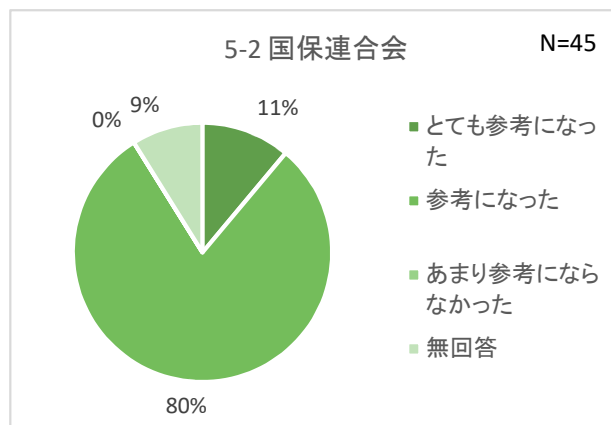
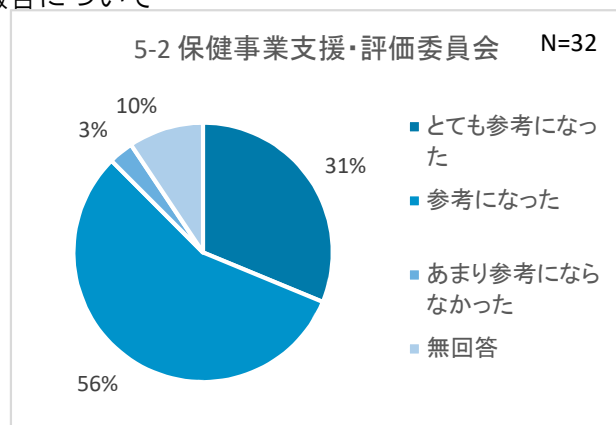
5. 報告『ヘルスサポート事業の取組状況と今後の方向性について ～ガイドライン改訂と令和4年度報告書を踏まえた検討～』

国民健康保険中央会保健福祉部保健事業課

視聴の有無について



報告について※



※ 無回答は、視聴の有無で「聴講しなかった」「無回答」を含む

主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (4)	ヘルスサポート事業の全体像をわかりやすく伝えていただき理解しやすかった。
	支援・評価委員会及びワーキンググループの開催状況が各都道府県で比較でき、大変参考になった。
国保連合会 (5)	他連合会の支援・評価委員会の取り組み状況が参考になった。
	他の連合会の支援状況を知ることができた。 保険者のニーズ把握をきちんと実施している点が参考になった。
	ガイドラインの訂正と共に今後の検討事項を再確認できた。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

6. 意見交換について

主な意見・感想

分類	属性	意見・感想
参考になった (27)	保健事業 支援・評価委員会 (15)	他県の支援・評価委員会の実践について、具体的に教えていただき、いろいろな取り組みがあることを知ることができ、とても参考になった。また、本県の連合会、委員会の取り組みが、とても戦略的で丁寧なものであることを知る機会にもなった。次回の委員会にて、他の委員の皆様にもその旨をご報告したいと思う。
		他県の状況をお聞きすることができ、本県の支援・評価委員会のあり方を客観的に考えることができた。また、運営委員の先生からの助言は大変参考になった。
		各連合会ごとに支援・評価委員会の開催方法を工夫しながら保険者にとって効果的な助言を行えるよう取り組まれていることがわかった。いろいろ課題があると思うが、このような意見交換の機会があることで対応の参考になると思う。
		他県の取組状況や課題等について、多少共有することができたと思うが、私自身の委員歴が短いこともあり、これまで本県で取り組んできた経過を踏まえて工夫・改善した点を十分に把握しないまま発表したことで、他県に状況がうまく伝わらなかったと感じている。
		評価支援委員会の立場から他県の状況やご意見を聞かせていただくことで、自県でも取り入れるべき点など参考になった。（評価支援後の反映状況の確認等） 多くでされている業者委託のデメリットなどもお聞きでき、委託する場合の最初におさえておかなければいけないポイントも、他県を参考に情報共有していきたい。有意義な意見交換でした。
	国保連合会 (12)	データヘルス計画の策定支援において、他県でも同じような悩みを抱えていることがわかった。どのように対応しているか聞くことができ、支援の参考になった。
		各県によって実施方法がかなり異なるため、参考になった。 今後効果的な支援になるよう実施方法について検討していきたいと思う。
		委託している保険者が多い県と少ない県があった。委託している場合は、それに伴う保険者の特性や課題の計画への盛り込み方、業者との役割分担の明確化等について、各県でPDCAを回すための委託業者との関わり方が全国的な共通課題であることを知る場となった。 運営委員会の先生のアドバイスにあった、支援のポイントやタイミングに注意して支援が必要という言葉が印象的であった。
		今年は保健事業支援・評価委員同士の意見交換ができたので良かった。（昨年は、連合会職員がほとんど意見していた） 保険者の第3期計画策定の助言については、「事業の優先順位をしっかりと絞ること」「戦略を記述すること」「共通評価指標で横の比較をして終わるのではなく、どうして数値が上がったかを評価すること」等が参考になった。

議論の進め方 (7)	保健事業 支援・評価委員会 (5)	各県からの報告は参考になったが、意見交換は難しさを感じた。
		他県の委員から制度に関して、特に評価指標について、ご不満を多く聞いた。意見交換会には、国保中央会の方々も傍聴されていたので、お互いに議論していただければ、私達にも問題の本質が理解できたのではないかと感じた。
		テーマを絞っての討議をしていただけると、深めることができるのではないかなと思う。
		もう少し余裕をもった時間配分を検討していただくとありがたい。
		委員が欠席している県もあったため、できれば、事務局と委員の両方参加する形で意見交換がなされると、今後の取り組みに向けた有効な場になると思った。
	国保連合会 (2)	時間の中で意見交換する内容は事前に決めておくか、連合会側で意見交換する内容の事前準備をしておき、資料を提示しながら説明を聞けるようにしていただけると、参加できなかった委員にも資料共有が出来たと思う。来年度以降ご検討いただけるとありがたい。
		委員間の意見交換に事務局が参加すると、当事者が意見を自由に発言しにくいのではないかなと思った。（第2部と第3部が同様の内容になってしまった）
事前資料 (5)	保健事業 支援・評価委員会 (2)	もし可能なら、事前に課題を提出し、共通している（または近い）県と一緒にすると論点が絞れるのではないだろうか。
		意見交換時に各報告者からの資料があると、報告を聞く時の確認や質問をしやすくなるので、できる限り資料の提出を促したほうが良いと思う。
	国保連合会 (3)	意見交換内容の具体的な資料があるとよかった。
		Webのため特に感じたのかもしれないが、積極的な発言がなく、進行役の委員に負担が大きかったように思う。有効な意見交換を行うために、事前に委員に対して内容をより具体的に提示したうえで報告会に参加していただく必要性を強く感じた。
		資料添付のなかった連合会分について、配布してくださるとありがたい。

日程 (3)	国保連合 会 (3)	年末の開催は、当県では実際に診察している医師を学識経験者として いることもあり、参加したくてもできないと言われた。
		委員の先生が出席していない県が多く、いろんな先生の意見を伺うた めにも、早めに日程の連絡があるとありがたいと思った。
		委員の方々の出席調整もあるので、開催予定日だけではなく候補日 についても分かった段階で教えて頂けるとありがたい。また、司会にあ たる場合には事前にご連絡をいただきたい。
開催形式 (2)	保健事業 支援・評 価委員会 (1)	リモート開催でありがたかった。
	国保連合 会 (1)	対面での参加時は、参加した委員と連合会職員のための参加となってい たため、同じ説明を受けても、聞いている側の立場によって参考にな る事柄が違ふことから共有しきれないこともあり、zoom開催の良さが あると感じた。
その他 (1)	国保連合 会 (1)	目的がDH計画づくりになっている保険者が多い中、支援・評価委員会 の役割は大きく、特に委託業者との関係性についての課題もあること がわかった。今後、委託業者と取り組む各事業について、保険者の基 本的な姿勢(計画作りで終わらせない)を含め、評価・分析方法などう まくできている保険者の報告を聞きたい。

ご感想 (13)	保健事業 支援・評価委員会 (5)	司会進行をさせていただいたが、それぞれの県で特徴があり、支援・評価委員会委員に加えて当該県連合会職員にも説明や質疑に加わっていただいた。できるだけ各道県の現状が他の道県にも参考にしていただけるように会を進めた。出席委員や連合会職員の方たちが比較的均等に話をすることができたのではないかと考えている。運営委員の方及び中央会の方からも有益なアドバイスをいただき、感謝する。情報の共有化に極めて有用な会であったと考える。終了時間が事務局からの予定より早まり、唐突になってしまったのは残念だった。
		同じ地方の自治体ではなく、他のブロックの自治体と一緒にグループとなって、情報交換ができたので興味深かった。また、自県と同程度の（都会ではなく田舎の）自治体との意見交換だったのも良かったと思う。
		司会進行を担当したが、参加されたそれぞれの支援・評価委員会の取り組みの良いところをうまく引き出せず申し訳なく思う。
	国保連合 会 (8)	データヘルス計画の策定支援において、県がどの様に支援するか関わり方が異なる。 各支援評価委員もどこまで支援することが望ましいか苦慮していることがわかった。
		保険者規模により、事業の進捗状況に格差が生じてしまっているという課題があがったが、共通の悩みであると感じた。 小規模保険者はマンパワー不足も常態化しており、保健事業の実施体制が脆弱である。（国保組合を含む）
		他県の委員が「委員会ですべて同じことを言っている気がする」というコメントをされ、どこも同じような状況ということを感じた。 支援・評価委員会が設置され、年数を重ねてきているので、なかなか目新しい助言といったことが難しくなっていると感じた。
		自県も含めて計画を委託する市町村が増加し、早期に設定をして委託していく中で、改めて対応の難しさを感じた。
		本会の代表委員が第3期データヘルス計画策定や日頃の支援で感じておられることも知ることができ、今後の委員会等運営において大変参考になった。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

7. 情報交換（対象：連合会職員）について

主な意見・感想

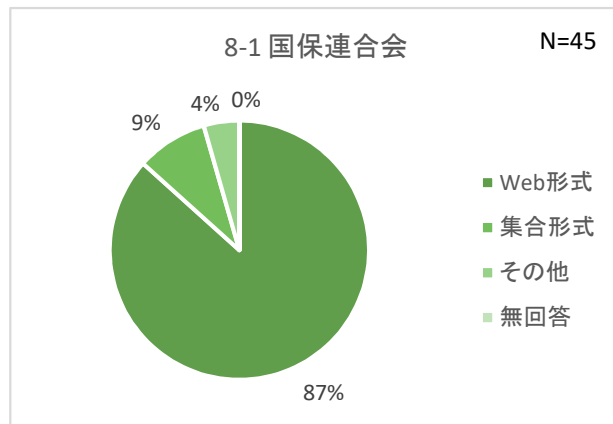
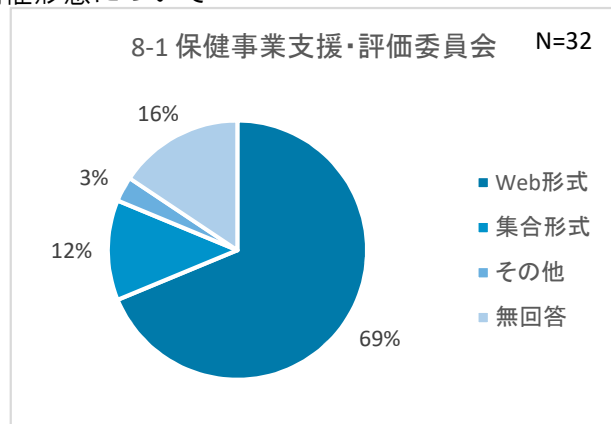
分類	意見・感想
参考になった (23)	コロナ禍で他県の方となかなか情報交換できなかったため、気軽に質問ができてよかった。 支援保険者数が多く、他都道府県と状況が違うところもあるが、都道府県や後期広域連合との連携等では参考になる点もあるため、規模によらず様々な都道府県との交流ができると良いと思った。
	他県の連合会の取組や、連合会として支援・評価委員会をどのように捉えて支援しているかなどの事務局としてのスタンスを伺うことができ、大変有意義だった。また司会の方の配慮ある進め方も大変良かったと思う。
	他県の支援・評価委員会の状況や課題を共有することができ、自県の課題に対してのヒントを得ることができた。係内で報告会内であったことを共有し、次回の支援・評価委員会開催に向けて調整していきたい。
	今年度はデータヘルス計画の策定・一体的実施への支援希望保険者が増加したこともあり、効果的・効率的な支援について話し合うことができ、今後の委員会運営の参考になった。
	支援保険者が多い状況で、限られた時間内に、効果的に支援を図るため、他県が工夫（委員支援前に打合せやグループワーク、情報のまとめ等）されており、大変参考になった。
	事務局としてH26年度から運営しているが、各都道府県の背景により支援の内容も差別化されつつあると思われる。保険者の特性に合った支援内容にするために、他連合会の内容は参考になるがそのままの形で当てはまるわけではないので、自分たちでのアセスメントはいつでも必要であると感じた。 ただし、他県の様子を知ることも必要であるので、話し合いの機会を持てて良かった。
	他県の連合会の皆様との意見交換は大変参考になった。また司会の方には、とてもいい進行をしていただき、心が軽くなった。最後に「ヘルスサポートをやっていてよかったこと」を参加者全員に聞いていただいたことが特に心に残った。普段から多職種、多機関との調整や実績のある先生方のいる委員会の運営など、困難さばかりに目を向けていた中、参加者全員が終わりには笑顔になれた。また明日から頑張る仕事をしようと思えたいい時間だった。
	連合会職員間の情報交換は初めての取り組みだったが、非常に良かった。具体的な内容まで踏み込んだ意見交換ができ、参考になることが多かった。 各連合会の取り組みを具体的にどのように工夫されているか聞くことができ、学びの機会になった。医師会連携の課題から、保健所とも連携を取り進められている報告は参考になることが多かった。
	同規模間での情報共有であったため、現状や課題が共通していることもあり、他県を知る良い機会となった。また、保健事業等の支援について、専門職や事務職と分けるのではなく、課内で協力し、状況を把握し合いながら進めていく必要があると再認識できた。

事前資料 (2)	Zoomで発言内容が聞き取れないこともあるので、全ての連合会に参考資料を何か提出していただけるとありがたい。
	事前に情報交換したい内容、他県へ聞きたいこと等を聞いてもらえれば、当日それに関連した資料を用意できた。意見がでないとき、司会の方が大変そうであった。司会の方のご負担を減らせるよう、事前にある程度聞きたいことを事前に聴取しリスト化することで意見が出ないとき困らないと思う。
グループ 分け (2)	今回北陸三県が同じグループであった。 東海北陸ブロックは、日頃から研修等で情報交換をしているため、グループ分けについて配慮いただきたい。
	例年の内容であれば今回のようなグループ分けで良かったが、今年度は、データヘルス計画策定に関して、支援・評価委員会でどのような支援を各県がされたのか、もう少し多くの他県の情報を得たかった。
ご意見 (1)	他府県連合会では、府県国保課や医師会との連携が円滑であり、明確な方向性・方針の下、各事業がリンクされ、展開できていると感じた。 連携を推進する旗振り役は府県国保課であると思うが、どのような方法で合意形成を図り、どう展開してきたのかを知りたいと思った。
参加対象 (1)	先進県の、県・広域連合・国保連合会等の組織連携体制・役割分担等を参考にしたい。 また、本研修会に県や広域連合の参加があれば、情報共有ができ、連携の協議が進めやすいのではないかと感じた。
ご感想 (4)	各連合会が様々な状況下で、様々な支援を展開しているため、一概に課題が同じではないと感じた。
	各議題については、国保中央会から議長が決定してよいと伺ったので、事前に各連合会の参加者にヒアリングをして決定した。
	時間が足りないくらい、各担当者の話を聞くことができ繋がりを持つことが出来た。
	連合会の保険者支援に関する評価が難しく、モチベーションの継続が厳しい。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

8. 開催形態の希望について

開催形態について



主な意見・感想

属性	分類	意見・感想
保健事業支援・評価委員会 (23)	Web形式 (19)	他の業務もあり日程調整が容易なため。
		移動時間を考慮せずに参加できる。
		講義・講演等については事前のWeb形式で何回も視聴できるため理解が深まった上に、当日、少人数のGWで情報交換等ができたため、非常に参考となった。
		Web形式が利便性が高く、参加しやすいが、一方で、カメラやマイク利用不可の参加者もあり、ディスカッションが深まらない課題もあると感じた。
		この時期の出張は難しいため。 できれば開催期日も考慮していただきたい。
	集合形式 (3)	具体的な取り組みを伺いたい都道府県があれば、直接コンタクトを取る機会を作れるかもしれないから。
		意見交換などはやはり集合して行う方がよい。
		日頃から情報共有できることにつながるため。
	その他 (1)	Web形式＋集合形式 講演は情報の共有がメインであるのでWEBが適している。情報交換は対面で行った方がよりその意義が深化できると考えるから。

国保連合 会 (37)	Web形式 (30)	Web形式であれば、委員の先生方の負担も少なく参加できるため。
		臨場感はないが、多くの職員が参加できるので、職員間の情報共有に役立つ。 この事業に関係するスタッフが多数出席でき、共有できることが今後の検討につながりやすいと思う。
		移動時間を考える必要がない。 また、多人数で参加しやすいから。
	集合形式 (4)	コロナ前に集合形式で開催された報告会に参加した際、他の都道府県の委員の意見を伺い、その熱意と考え方に感銘を受けた。 支援方法に違いはあっても方向性を確認できる貴重な時間になったので、集合形式での開催を希望する。
		Web形式のほうが参加しやすいことは承知しているが、国保連合会担当者としてはWeb形式より集合形式のほうが意見交換しやすいため。
		グループ外の都道府県の委員や連合会との情報交換を行いたい。
	その他 (3)	Web方式は参加しやすいが、詳細な内容については尋ねにくい ため、2年に1回でもいいので、参集による会の開催をお願いしたい。
		対面での参加はリアル感があるので、その場で聞きたいことが聞ける良さがある。しかし、その反面、参加者以外に情報が共有されにくいといったデメリットがある。機会の提供としては、Web開催では共有できる人数が多いといったメリットがある。 必要に応じて集合形式にすることで横のつながりの構築ができるものとする。
		Web形式では、複数人の職員が参加できるので連合会内で情報共有しやすい。一方で、集合形式では参加出来る人数が限られているが、出席者にとっては、記憶に残る報告会になると思う。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

9. 来年度開催にあたり、取り上げてほしいテーマについて

主な意見・感想

分類	属性	意見・感想
データヘルス計画関連 (5)	保健事業支援・評価委員会 (3)	データヘルスなどに関わる人材育成のための管理方法（HR戦略について）
		データヘルス計画に基づく取組例と評価委員の支援・関わり
		うまく展開している保険者の取り組みや特徴のあるデータヘルス計画、立案や運営についてなど、保険者から（むずかしければ連合会から）の発表があると支援の参考になる。
	国保連合会 (2)	（第3期データヘルス計画に基づく個別保健事業の推進について） ・ 中間評価に向けた対応 ・ 標準化されたデータヘルス計画を活かした保険者支援 ・ 保健事業のPDCAを循環させるための支援（特に、C→Aについて） ・ 保険者支援計画について
		第3期データヘルス計画の推進にあたっての保険者支援のポイント
支援・評価委員会 (5)	国保連合会 (5)	委員会での助言内容が保健事業に活かされ、効果が出ている取組や、支援保険者が増えることに対する効率的な委員会の実施方法など他の都道府県の取組について知りたい。
		支援・評価委員会の運営について
		保険者支援においてPDCAサイクルを回せている委員会（事務局）の事例報告
		保険者への具体的な助言について、さらに事例をお示しいただきたい。
		支援・評価委員会の事業評価について（特にアウトカムをどうみるか）
一体的実施事業 (4)	保健事業支援・評価委員会 (2)	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施～好事例報告
		一体的実施について、特にポピュレーションアプローチにおける評価や今後の見通し、国保連合会の役割など
	国保連合会 (2)	一体的実施事業における支援のポイント
		（意見交換） 高齢者の保健事業のデータヘルス計画に基づく一体的実施の支援について
国保保健事業 (2)	保健事業支援・評価委員会 (1)	国保医療費の中で、高額となっている疾患についての国保としての取組事例があれば伺いたい(例:整形外科疾患、精神疾患など)
	国保連合会 (1)	国保組合支援の状況

事業評価 (2)	国保連合 会 (2)	支援の評価をどのようにしたらいいのか。
		国保連合会の事業評価について
事例 (2)	国保連合 会 (2)	個別事業における、効果のあった実施方法（多剤等）
		委託業者との連携がうまくできている（PDCAが回せている）保険者の 取り組みの報告
KDB活用 (1)	国保連合 会 (1)	KDBを活用した予防活動、評価など PDCAサイクルで実際の活用について参考になるものがあれば 教えてほしい。
その他 (3)	保健事業 支援・評 価委員会 (2)	糖尿病性腎症重症化予防、CKD予防の包括的ケアのメタ解析の結果につ いて
	国保連合 会 (1)	インセンティブによる受診率上昇効果等のエビデンスなどがあればご 教示いただきたい。
	国保連合 会 (1)	報告会ではないが、別に事務局のスキルアップを目的とした研修が あってもよいと思う。

令和5年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

10. その他の意見・感想について

主な意見・感想

分類	属性	意見・感想
意見交換 情報交換 (4)	国保連合 会 (4)	昨年のように、事前に各連合会の委員会の体制等の資料があると話しやすく、質問がしやすかった。議題が漠然としていて当日質疑応答するのは大変だった。
		意見交換では、内容を絞り込み、事前アンケートにより当日資料の作成を希望する。
		意見交換や情報交換について、グループで各テーマに対する結論をだす必要がなかったのが、意見がしやすかった。
		意見交換については、最後に全体で各グループの運営委員の先生もしくは司会担当の方から報告していただくなど共有の時間がほしかった。 後で記録を送付してくださるとのことだったが、どんなことが話題でどう取り組んでいるかを一言でもよいので、お聞きしたかった。
事前動画 配信 (3)	保健事業 支援・評 価委員会 (2)	事前にWEB配信で関連する重要講演を拝聴することができ、大変勉強になった。次回も、事前に聴取することができるような企画にしていただくと希望する。
		事前に動画での講義を見て参加する形態は、内容や講師の先生も素晴らしく、また時間の確保上も効率的でよかった。反面、直接お話を伺うことの利点もあり、内容等に応じて臨機応変に展開していただけるとありがたいと思う。
	国保連合 会 (1)	事前に動画視聴をする形式はよかった。動画視聴開始がもう少し早いと良いと思った。（報告会までに視聴したいため、もう少し日数に余裕があると良かった。）
日程 (3)	国保連合 会 (2)	先生方の日程確保が大変なので、事前予告の段階で時間帯まで分かれば助かる。
		開催について、委員に参加していただくにあたり、本会においても委員との調整や資料の準備や手続き等が必要になるため、来年は、その点を考慮していただきスケジュールを計画していただきたい。
開催形式 (1)	国保連合 会 (1)	ウェビナー形式の会議は多くの人が参加できるメリットがあるが、参加者同士の関係が深められないデメリットがあると感じている。現在、連絡を取り合っている他都道府県の連合会職員とは、集合形式の会議で面識をもった方が多いので、そのような機会をいただけるとありがたい。
構成 (1)	国保連合 会 (1)	3部構成での報告スタイルは、一度に情報を詰め込むことがないのでよかったと思う。

助言集 (1)	国保連合 会 (1)	毎年同じような質問が委員会の際に上がる。事務局で助言集を作成したいが業務の都合により作成する時間がない。中央会である程度よくある質問に対しての助言集を作成していただき、それを参考にした上での協議とすることで新たな視点も生まれ、委員会の効率化にもつながるのではないかな。
ヘルスサ ポート事 業報告書 (1)	国保連合 会 (1)	意見交換でも出ていたが、事業報告書を11月中くらいにいただけるとありがたい。
Zoom操 作 (1)	国保連合 会 (1)	ブレイクアウトルームへの振り分けを、ホストの方で一括でしていただけるとありがたい。 (自分で入室してもよいのですが、動作が不安定だった。)
ご感想 (4)	保健事業 支援・評 価委員会 (2)	全国的な動きと他の都道府県の状況を知る良い機会をいただき感謝する。 保険者のインセンティブとして支援・評価委員会での助言を受けることになっているが、支援・評価委員会が保険者の効果的な保健事業や医療費適正化の助けになっているのだろうか心配になることがある。 保健指導など事業の業者委託化が進み、保険者の事業へのモチベーションが低下する中、行政会議の一つにならないよう運営に協力したい。
		現行の国保データヘルス事業の設定はマトリックスを隙間なく埋めていくように事業を増やしているのであるが、その事業を担当するのはコロナ予防接種も、災害対応も、災害支援も、1～2名の保健師である。今のような、網羅的に事業を増やしていく国保データヘルス事業のあり方には疑問を感じている。これだけ全国で、経年的に取り組んでも医療費は上昇し続けているのではないかな。9年間、支援評価委員会に参加しての感想である。
	国保連合 会 (2)	支援・評価委員会の運営は、地域特性が顕著に出始めてきていると思う。データヘルス計画の持つ意味について、県・国保保険者として共通した認識を持つ必要があると思われる。その支援として委員会活用があるように思われるので、事務局としてその調整をしていく上で今後どのように運営していくかといったことは県単位で違いが出てくると思われる。 健康課題の解決に向けて、委員の助言をいただきながら継続した支援ができるにコツコツするのみだと思っている。